

令和2年度

教科指導計画

| | | | |
|-------|---------|-----|---|
| 教科・科目 | 国語・国語総合 | 単位数 | 4 |
|-------|---------|-----|---|

| | | | |
|--------|---|-----|------|
| 学年・クラス | 1学年（ 必修 ・選択） | 担当者 | 岡崎浩志 |
| 使用教科書 | 新編 国語総合改訂版 (大修館書店) | | |
| 使用副教材 | 国語総合改訂版「課題学習ノート」 (大修館書店) 最新国語便覧 (浜島書店) | | |

目標（何を定着させるのか？）

1. 読解力を身に付けます。
2. 話すことや書くことをとおし、コミュニケーション力を養います。
3. 現代や古典の文章をとおし、想像力を豊かにし、思考力を深め、他者の心情を推し量る力を養います。
4. 言語文化に対する関心を深め、尊重する姿勢を身に付けます。

評価規準

| | ①関心・意欲・態度 | ②話す・聞く力 | ③書く能力 | ④読む能力 | ⑤知識・理解 |
|-------|--|---|--|---|--|
| 評価の観点 | 国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり、理解したりするとともに、伝え合おうとする。 | 自分の意見や思いを、相手や場面に応じた適切なことばを用いて、筋道を立てて話したり、他人の話すことを的確に聞き取ったりする。 | 自分の意見や思いを、相手や場面に応じた適切な言葉を用いて、筋道を立てて適切に文章を書く。 | 現代や古典の様々な文章を的確に読み取って内容を正しく理解したり、読書に親しんだりする。 | 文学史や著名な小説家、代表作などの文学に関する知識に加え、発音・文法・表記・語彙といった言語や表現に関する知識を身に付けている。 |
| 割合 | 20% | 20% | 20% | 20% | 20% |

学習評価（具体的にどのように評価されるのか）

| 評価対象/評価の観点 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 具体的な評価方法 |
|------------|---|---|---|---|---|---------------------|
| 授業への取り組み | ○ | | | | | 授業の準備 |
| 言語活動 | △ | ○ | ○ | | | 発言や発表、作文など |
| 課題提出 | △ | | | | ○ | ワークブックなどの期限内提出、学習内容 |
| 定期考査、テスト | | | ○ | ○ | ○ | 努力、学習意欲、向上心、達成限度 |

○は重視、△は参考

| 学期 | 月 | 単元 | 学習内容 | 評価規準 |
|----|-----------------------|---|---|--|
| 前期 | 4 | 感動する心 ・メッセージ探しの旅 | ・筆者の思考を学び、新しいものの見方や感じ方を知る。 | ・筆者と熊井さんからそれぞれ「赤毛のアン」からどのようなメッセージを受け取ったか、理解している。 |
| | 5 | 日本語を考える ・漢字の性格 | ・日本語の特質や特殊性について考える。 | ・表意文字と表音文字の違いとそれぞれの特徴を理解しているか。 |
| | 6 | 古典に親しむ ・古典の魅力 | ・日本文化の特色や古典の世界の広がりを知る。 | ・古典を学ぶ意義を理解しているか。 |
| | 7 | 古典文法 ・動詞・形容詞、 形容動詞 助動詞 | ・文法事項を正しく理解し、日本語の微妙なニュアンスの違いについて知る。 | ・動詞、形容詞、形容動詞の活用の仕方や活用形、見分け方がわかるか。 ・助動詞による意味の違いが理解できたか。 |
| | 8 | ねずみの婿とり ・兄子のそら寝 ・漢文のすすめ ・訓読のきまり ・訓読に親しむ | ・古典作品に親しむ姿勢を養う。 ・漢文訓読のきまりを理解する。 ・格言を読み、漢文訓読のリズムを正しく理解すると共に漢文訓読のきまりを確認する。 | ・文法を踏まえながら正しい口語訳ができたか。 ・書き下し文を確認し、本文を正確に読むことができたか。 |
| 9 | 故事と史話 ・蛇足 ・鶏口牛後 | ・故事成語の意味や背景を正確に理解し、漢文学習への興味・関心を高める。 | ・格言について、現代生活ではどのような場面に用いるのかを理解しているか。 | |
| 後期 | 10 | ・文化とことば ・水の東西 | ・具体的な例から抽象的な見解へと進む論の運び方を味わいながら、要旨をまとめる。 | ・身近な水をとおして、日本と西洋のものものの見方や考え方を明らかにしようとしていることを、理解しているか。 |
| | 11 | 小説を楽しむ ・羅生門 | ・登場人物の心理や場面描写、構成などに注目し、読解力を高め想像力を育む。 | ・下人の心理の移り変わりを場面に即して読み取ることができたか。 |
| | 12 | 随筆の親しみ ・にくきもの ・高名の木登り | ・枕草子の「ものづくし」をとおして、清少納言のものに対する見方感じ方を理解する。 | ・日本的な季節感、自然観、人間観、平安期の美意識などに触れ、随筆を読み味わうことができたか。 |
| | 1 | 物語の世界 ・芥川 ・筒井筒 | ・兼好の人間・社会・自然に対するものものの見方、感じ方、考え方を理解する。 | ・重要古語や古典文法に注意しながら、本文に即して口語訳できたか。 |
| | 2 | 唐詩のしらべ ・春眠暁を覚えず ・春望 | ・唐詩の表現の特色を知り、その魅力に触れて、読解・鑑賞について理解を深める。 | ・絶句や律詩の形式について理解できたか。 |
| | 3 | 自然に目を向けて ・生きることと食べる ことの意味 読書を広げる ・鏡 | ・論理的に文章を読んで、その論理の展開をたどりながら筆者の主張を的確に捉える。 ・作品世界のおもしろさを、場面や心情の変化、語り方や表現に即して読み味わう。 | ・筆者の問題提起の内容と叙述の仕方や論理展開の工夫について理解できたか。 ・作品の中で「僕」が体験談を語るというこの作品の構造を理解できたか。 |

| | | | |
|-------|---------|-----|---|
| 教科・科目 | 地歴・世界史A | 単位数 | 2 |
|-------|---------|-----|---|

| | | | |
|--------|---------------------|-----|--------|
| 学年・クラス | 1学年（ 必修 ）・選択 | 担当者 | 鈴木 香代子 |
| 使用教科書 | 明解 世界史A | | (帝国書院) |
| 使用副教材 | 明解世界史図説 エスカリエ | | (帝国書院) |

目標（何を定着させるのか？）

近現代史を中心とする世界における歴史上の出来事を理解し、近現代の世界の歴史を将来の世界の姿と関連づけて考えられるようになり、自分自身の見解や考え方を構築し、他人に伝えられるようになることを目指します。

授業の内容/考查の内容・観点（授業の進め方・考查でのポイントは？）

内 容：近現代史を中心とする世界の歴史の展開について、課題意識を持って学習します。
進め方：教科書と資料集を中心に展開します。興味を持ったことを深く調べたり自分自身の考えをまとめて発表することもあります。家庭学習での予習・復習が必要です。
考 査：授業で学習したことの理解度、思考力・判断力、資料活用の技術が試されます。
観 点：興味・関心をもって意欲的に授業参加しているか、内容をしっかり理解し自分のものになっているか、知識を活用した思考・判断で表現できているかを観ます。

評価規準

| | ① 関心・意欲・態度 | ② 思考・判断・表現 | ③ 資料活用の技術 | ④ 知識・理解 |
|-----------|---|---|---|---|
| 評 価 の 観 点 | 近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。 | 現代社会の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 | 近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 | 近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけている。 |
| 割 合 | 20% | 30% | 20% | 30% |

学習評価（具体的にどのように評価されるのか）

| 評価対象/評価の観点 | ① | ② | ③ | ④ | 具体的な評価方法 |
|------------|---|---|---|---|--------------------|
| 授業への取り組み | ○ | ○ | ○ | ○ | ノートの作成、積極的態、集中力 |
| 提出物・発表 | ○ | ○ | ○ | △ | ノート、レポート、プレゼンテーション |
| テスト | △ | ○ | △ | ○ | 定期考査、単元テスト |
| | | | | | |
| | | | | | |

○は重視、△は参考

| 学期 | 月 | 単元 | 学習内容 | 評価規準 |
|----|---|--------------|------------------------------------|--|
| 前期 | 4 | 序節 | 人類の始まり | ・歴史が始まる以前の人類誕生期について、意欲的に考察し、関心を高めようとしている【①】 |
| | | 1部 世界の一体化と日本 | 1節 東アジアの文明 | ・紀元前の中国形成期から紀元後、中国の分裂期を経て隋、唐の統一時代あたりまでの過程について基本的事柄を把握し、その知識を身につける【④】 |
| | 5 | 1章 前近代の諸文明 | 2節 南アジアの文明 | ・南アジアから東南アジアの形成過程について基本的事柄を把握し、その知識を身につけている【④】 |
| | | | 3節 東南アジアの文明 | |
| | | | 4節 西アジア・北アフリカの文明 | ・西アジア世界の形成過程からイスラーム世界の形成と拡大の過程について基本的事柄を把握し、その知識を身につけている【④】 |
| | | | 5節 ヨーロッパの文明 | |
| | | 6節 南北アメリカの文明 | ・ヨーロッパ、南北アメリカ、ユーラシアの交流圏の形成過程について基本 | |

| | | | | |
|----|--------------------------------|--------------------|---|------------------------------|
| | | 7節 ユーラシアの交流圏 | 的な事柄を把握し、その知識を身につけている【④】 | |
| 6 | 前期中間考査 | 考査・解答・解説 | ・準備から考査、解答、解説まで真摯に取り組んでいる【①】 | |
| | 2章 一体化に向かう世界 | 1節 繁栄するアジア | ・アジアのティムール・オスマン・ムガル・明・清などの諸帝国の政治と社会にふれ、この時期に安定した支配と経済の繁栄を背景に、文化も黄金時代を迎えたことを理解する。【④】 ・諸地域世界の交流と再編を空間的なつながりに着目して捉え、論理的に思考し適切に表現している【②】 | |
| | 7 | 2節 大航海時代と新たな国家の形成 | ・ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓などにふれ、16世紀頃から始まった世界の一体化への動きと新たなヨーロッパの枠組みとなった主権国家体制の形成について理解する。【④】 | |
| | 8 | | | |
| 9 | 前期期末考査 | 考査・解答・解説 | ・準備から考査、解答、解説まで真摯に取り組んでいる【①】 | |
| | 第3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺 | 1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命 | ・アメリカ諸国の独立、フランス革命、産業革命、拡大する貿易活動などを通して、西ヨーロッパとアメリカに産業社会が成立し、市民社会および国民国家の形成が進行したことを理解する。【④】 | |
| 後期 | 10 | 2節 自由主義・ナショナリズムの進展 | ・19世紀後半のヨーロッパ、アメリカ社会を通して、自由主義とナショナリズムが進展していく様子とアメリカの発展について理解する。【①】 | |
| | 11 | 3節 アジア諸国の動揺 | ・オスマン帝国の弱体化やムガル帝国の崩壊などを通して、世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容など、アジア諸国の動揺の様子を理解する。【④】 | |
| | | 4節 東アジアの大変動 | ・アヘン戦争やアロー戦争などの西洋の衝撃により、冊封＝朝貢体制に基づく東アジアの伝統的な国際秩序が崩壊していく過程を通して、ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況、半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、その中での日本の対応など、東アジアの大変動を理解する。【④】 | |
| | | 後期中間考査 | 考査・解答・解説 | ・準備から考査、解答、解説まで真摯に取り組んでいる【①】 |
| 12 | 2部 地球社会と日本 1章 現代世界の芽ばえと世界大戦 | 1節 現在につながる社会の形成 | ・交通革命、マス＝メディアの発達、企業や国家の巨大化、社会の大衆化と政治や文化の変容、公教育の普及と国民統合などを通して20世紀という時代の特徴を把握するとともに、欧米諸国によるアジア・アフリカの植民地化をめぐる競争と人口移動から、世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解する。【④】 | |
| | 12 | 2節 第一次世界大戦がもたらしたもの | ・第一次世界大戦と総力戦としての様相、ロシア革命、ソヴィエト連邦の成立、戦争と革命による国際秩序の変化、アメリカの大衆生活とその波及を通して、20世紀初頭の変化の様相を理解する。【④】 | |
| 1 | | 3節 “民族自決”を求めて | ・インド・中東および東アジアの民族運動を通して、“民族自決”を求めたアジアのナショナリズムの動きを理解する。【④】 | |
| | | 4節 経済危機から第二次世界大戦へ | ・第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格、それらが及ぼした影響を理解し、平和の意義について考察する。2部1章2節とあわせて20世紀前半の国際政治の流れを概観し国際関係の変遷と社会の特徴を理解する。【④】 | |
| 2 | 2章 冷戦から地球社会へ | 1節 冷たい戦争の時代 | ・第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解し、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察する。【②】 | |
| | | 2節 冷戦終結への道のり | ・1970年代以降は市場経済の世界化をはじめ、米ソのゆらぎや冷戦の終結などから、世界が大きく変容し、今日に至っていることを理解する。【④】 | |
| | | 後期期末考査 | 考査・解答・解説 | ・準備から考査、解答、解説まで真摯に取り組んでいる【①】 |
| 3 | | 3節 地球社会への歩み | ・冷戦終結後の世界の政治・経済の動向について理解するとともに、日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向を模索し、これからの国際社会における日本の役割について考察する。【②】 | |
| | | 4節 持続可能な社会をめざして | ・三つの事例、①メソポタミア湿原の回復に向けて、②フランスから送還されるロマの人々、③よみがえる伝統“ノクシカタ”、を通して、“共に生きる世界”について考察し、その構築に向けての方策を探る。そして、これからの世界と日本のあり方や世界の人々が共存できる、環境・経済・社会のバランスが保たれた“持続可能な社会”の実現について考える。【②】 | |
| | | 課題学習 | ・ここまで学習したことをふまえ、現代世界の特徴や課題についてそれぞれが興味のあるテーマを見つけて決定し、自ら調べてレポートにまとめ、報告・発表する。意見交換の場を通して、自分の意見をいっそう明確にしたり、修正・再検討を加える。【②】 | |

| | | | |
|--------|------------------------|-----|-------|
| 学年・クラス | 1学年 (必修 ・ 選択) | 担当者 | 谷口 健二 |
| 使用教科書 | 改訂版 新編 数学I (数研出版) | | |
| 使用副教材 | 3 TRIAL 数学I+A (数研出版) | | |

目標 (何を定着させるのか?)

数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解することを目標にします。また、基礎的な知識と技能を身に付け、さらに事象を数学的に考察する能力を育成しながらそれらを活用できるようにします。

授業の内容/考查の内容・観点 (授業の進め方・考查でのポイントとは?)

授業の内容：数と式・2次関数・図形と計量・データの分析について学習します。
 授業の進め方：必要に応じて課題用ノートを提出します。
 考查の内容：基礎計算、公式など授業で扱った内容が基本となります。応用問題も出ます。

評価規準

| | ② 関心・意欲・態度 | ② 数学的な見方考え方 | ③ 数学的な技能 | ④ 知識・理解 |
|-------|---|---|---|--|
| 評価の観点 | 数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析における考え方に関心をもつとともに、数学の良さを認識し、それら的事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 | 数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。 | 数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 | 数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 |
| 割合 | 10% | 10% | 40% | 40% |

学習評価 (具体的にどのように評価されるのか)

| 評価対象/評価の観点 | ③ | ④ | ③ | ④ | 具体的な評価方法 |
|------------|---|---|---|---|-------------------|
| 授業の取組み | ○ | ○ | ○ | ○ | 授業準備 授業態度 取組み状況など |
| 課題 | ○ | ○ | △ | △ | 提出物 宿題 レポートなど |
| テスト | | ○ | ○ | ○ | 小テスト、定期考査など |

○は重視、△は参考

| 学期 | 月 | 単元 | 学習内容 | 評価規準 |
|----|---|--------|------------------------|---|
| 前期 | 4 | 式の計算 | 整式の加法・減法 | <ul style="list-style-type: none"> 単項式や多項式、整式、同類項、次数について理解している。[知] ある文字に着目して整式同類項をまとめ、整理することができる。[技] 整式を降べきの順に整理することができる。[知] 整式の加法、減法の計算ができる。[知] |
| | | | 整式の乗法 | <ul style="list-style-type: none"> 指数法則を理解し、計算に用いることができる。整式の乗法の計算ができる。[技][知] 式の展開は分配法則を用いれば必ずできることを理解している。[見] また、展開の公式を利用することができる。[知] 対称式では輪環の順に文字式を整理することができる。[技] 式の特徴に着目して変形したり、式を1つの文字に置換えたりすることによって、式の計算を簡略化することができる。[見][技] |
| | 5 | 実数 | 因数分解 発展問題 実数 | <ul style="list-style-type: none"> 因数分解の公式を利用することができる。[知] 展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用する態度がある。[関] 因数分解を行うのに文字の置換えを利用することができる。[技] 整式を適切な形に整理することによって因数分解や計算ができる。[見] 数を実数まで拡張する意義を理解している。[知] 循環小数や有理数などの分類を理解し、行える計算を体系的に理解している。[見] 絶対値の考え方を理解し、計算することができる。[知] |
| | 6 | 前期中間考査 | 根号を含む計算 補充問題・章末問題 | <ul style="list-style-type: none"> 平方根の意味・性質を理解している。[知] 平方根の性質、平方根の積、商などについて、一般化して考えられる。[見] 根号を含む式の加法、減法、乗法が計算できる。また、分母の有理化ができる。[知] |

| | | | | |
|--|----|---------------|---|--|
| | 7 | 1次不等式 | 不等式の性質 | <ul style="list-style-type: none"> 不等号の意味を理解し、数量の大小関係を式で表すことができる。[技] 不等式の性質を理解している。[知] |
| | | | 1次不等式 | <ul style="list-style-type: none"> 不等式における解の意味を理解している。[知] 1次不等式を解くことができる。[知] 1次不等式の解を、数直線を用いて表示できる。[技] 連立不等式の解を、数直線を用いて表示できる。[技] 連立不等式の意味を理解し、連立1次不等式を解くことができる。[知] $A < B < C$を$A < B$かつ$B < C$と考えて連立不等式を解くことができる。[技] 身近な問題を1次不等式を用いて、解くことができる。[見][知] |
| | | 絶対値を含む方程式・不等式 | <ul style="list-style-type: none"> 絶対値の意味から、絶対値を含む方程式、不等式を解くことができる。[技][知] 絶対値記号を含む式について、絶対値記号をはずす処理ができる。[技] | |
| | 8 | 集合 | 集合 | <ul style="list-style-type: none"> 条件を満たすものを集合の要素としてとらえることができる。[見] 集合の特徴によって、要素を列挙する方法と要素の満たす条件を示す方法を使い分けて、集合を表すことができる。[技] ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して処理することができる。[技] 2つの集合の関係を、記号を用いて表すことができる。[技] 空集合、共通部分、和集合、補集合について理解している。[知] ド・モルガンの法則を理解している。[知] 3つの集合についても和集合、共通部分について考察しようとする。[関] |
| | | | 命題と条件 | <ul style="list-style-type: none"> 命題の真偽を、集合の包含関係に結びつけてとらえることができる。[見] 命題を表す記号を理解し、命題の真偽を考察することができる。[技] 命題の真偽、反例の意味を理解している。[知] 命題が偽であることを示すには反例を1つあげればよいことが理解できている。[見] 条件と集合の関係を理解し、必要条件、十分条件、必要十分条件を集合の関係でとらえることができる。[見] 必要条件、十分条件、必要十分条件、同値の定義や使い方を理解している。[知] 条件の否定を表す記号を理解している。[技] 条件の否定、ド・モルガンの法則を理解しており、条件の否定が求められる。[知] |
| | | | 命題とその逆・対偶・裏補充問題 | <ul style="list-style-type: none"> 命題の逆の定義と意味を理解しており、それらの真偽を調べることができる。[知] 命題の対偶の定義と意味を理解しており、それらの真偽を調べることができる。[知] |
| | 9 | 2次関数とグラフ | 関数とグラフ 2次関数のグラフ | <ul style="list-style-type: none"> 2つの数量の関係を式で表現できる。[見] $y=f(x)$や$f(a)$の表記を理解しており、用いることができる。[技] 与えられた条件から1次関数を決定することができる。[知] 1次関数のグラフがかけて、値域が求められる。[知] 放物線$y=ax^2$の形や軸、頂点について理解している。[知] $y=ax^2+q$、$y=a(x-p)^2$などの表記について、グラフの平行移動とともに理解している。[技] ax^2+bx+cを$a(x-p)^2+q$の形に変形できる。[技] 平方完成を利用して2次関数のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。[技][知] グラフの平行移動が、x軸方向、y軸方向の用語を用いて表現できる。[技] 一般の2次関数$y=ax^2+bx+c$のグラフについて、軸、頂点の式を考察しようとする。[関] 座標平面上の点と象限について、理解を深めようとする。[関] グラフの平行移動や対称移動について理解している。[知] グラフの平行移動や対称移動の一般公式を積極的に利用しようとする。[関] |
| | | | 前期期末考査 | |
| | 後期 | 10 | 2次関数の最大・最小 | <ul style="list-style-type: none"> 関数の値の変化がグラフから考察できる。[見] 2次関数が最大値または最小値をもつことを理解している。[知] $y=a(x-p)^2+q$の形にして、最大値、最小値を求めることができる。[技] 2次関数の最大・最小の問題を、図をかいて考察しようとする。[関] 2次関数の定義域に制限がある場合に、最大値、最小値が求められる。[知] 最大・最小の応用問題に2次関数を利用できる。また、最大・最小の応用問題において、計算を容易にするような変数設定ができる。[技][知] |
| | | | | 2次関数の決定 |

| | | | | |
|-----|--------|-------------------|--|--|
| | | 2次方程式 | <ul style="list-style-type: none"> 与えられた条件を関数の式に表現できる。〔技〕 2次関数の決定において、条件を処理するのに適した式の形を使うことができる。〔見〕 与えられた条件から2次関数を決定することができる。〔知〕 一般の連立3元1次方程式の解き方に興味・関心をもつ。〔関〕 2次方程式の解き方として、因数分解利用、解の公式利用を理解している。〔知〕 2次方程式を解く一般的方法として解の公式が利用できる。〔見〕 1次の係数が$2b'$である2次方程式の解の公式を積極的に利用しようとする。〔関〕 2次方程式の解の考察において、判別式$D=b^2-4ac$の符号と実数解の関係を理解し、利用することができる。〔技〕〔知〕 | |
| | | 2次関数のグラフとx軸との位置関係 | <ul style="list-style-type: none"> 2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。〔見〕 2次関数のグラフとx軸の共有点の座標が求められる。〔知〕 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数を求めることができる。〔技〕 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を、$D=b^2-4ac$の符号から考察することができる。〔見〕 | |
| 1 1 | | 2次不等式 | <ul style="list-style-type: none"> 1次関数のグラフと1次不等式の関係から、2次不等式の場合を考えようとする。〔関〕 2次不等式の解と2次関数の値の符号を相互に関連させて考察できる。〔見〕 2次不等式を解くときに、図を積極的に利用する。〔関〕 2次不等式を解くことができる。〔知〕 式を解きやすい形に変形してから2次不等式を解くことができる。〔技〕 2次不等式を利用する応用問題を解くことができる。〔知〕 2次の連立不等式を解くことができる。〔知〕 身近な問題を2次不等式の問題に帰着させることができ、問題を解くことができる。〔見〕〔知〕 | |
| | 後期中間考査 | 三角比 | <ul style="list-style-type: none"> 直角三角形において、正弦・余弦・正接が求められる。〔知〕 三角比の表から$\sin \theta$、$\cos \theta$、$\tan \theta$の値を読み取ることができる。〔見〕 三角比の定義から、辺の長さを求める関係式を考察することができる。〔技〕 直角三角形の辺の長さを三角比で表す式を理解し、応用問題に利用できる。〔知〕 具体的な事象を三角比の問題としてとらえることができる。〔見〕 | |
| | | 三角比の相互関係 | <ul style="list-style-type: none"> $\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1$を三平方の定理としてとらえることができる。〔見〕 三角比の相互関係を利用して、1つの値から残りの値が求められる。〔知〕 $\sin(90^\circ - \theta) = \cos \theta$などの公式を利用することができる。〔技〕 | |
| | | 三角比の拡張 | <ul style="list-style-type: none"> 拡張された三角比を、座標平面に図示して考察することができる。〔見〕 直角三角形の斜辺の長さを適当に変えて、三角比を考察することができる。〔技〕 $\sin(180^\circ - \theta) = \sin \theta$などの公式を利用することができる。〔技〕 座標を用いた三角比の定義を理解し、三角比の値からθを求めることができる。〔知〕 三角比が与えられたときのθを求める際に、図を積極的に利用しようとする。〔関〕 | |
| | | 1 2 | 正弦定理 | <ul style="list-style-type: none"> 正弦定理の図形的意味を考察する。〔関〕 三角形の外接円、円周角と中心角の関係などから、正弦定理を導こうとする。〔関〕 正弦定理における$A=B=C=D$の形の関係式を適切に処理できる。〔技〕 正弦定理を利用して三角形の外接円の半径、辺の長さや角の大きさが求められる。〔知〕 正弦定理を測量に応用できる。〔見〕〔知〕 |
| | | | 余弦定理 | <ul style="list-style-type: none"> 余弦定理の図形的意味を考察する。〔関〕 三平方の定理をもとに、余弦定理を導こうとする。〔関〕 余弦定理を利用して、三角形の辺の長さ、角の大きさが求められる。〔知〕 余弦定理を測量に応用できる。〔見〕〔知〕 |
| | | 正弦定理・余弦定理の応用 | <ul style="list-style-type: none"> 余弦定理や正弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。〔技〕 三角形の解法について興味を示し、$\sin 75^\circ$なども求めようとする。〔関〕 三角形において、正弦の値から角はただ1つに定まらないことを理解している。〔知〕 正弦定理を$a : b : c = \sin A : \sin B : \sin C$として利用できる。〔技〕 | |

| | | | |
|---|--------|---------------------|---|
| 1 | | 三角形の面積 | <ul style="list-style-type: none"> ・三角比を用いた三角形の面積公式を理解している。〔知〕 ・三角形の面積を、決定条件である2辺と間の角または3辺から求めることができる。〔見〕 ・3辺が与えられた三角形の内接円の半径を求めることができる。〔技〕 |
| | | 空間図形への応用 補充・章末問題 | <ul style="list-style-type: none"> ・正弦定理、余弦定理を空間図形の計量に応用できる。〔見〕〔知〕 ・測量や空間図形の応用では、適当な三角形に着目して考察できる。〔技〕 ・正四面体の体積の求め方を理解している。〔知〕 |
| 2 | データの分析 | データの整理 | <ul style="list-style-type: none"> ・度数分布表、ヒストグラムについて、理解している。〔知〕 ・データを度数分布表に整理することができる。また、度数分布表をヒストグラムで表すことができる。〔技〕 |
| | | データの代表値 | <ul style="list-style-type: none"> ・身近な統計における代表値の意味について考察しようとする。〔関〕 ・平均値や中央値、最頻値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。〔技〕 ・データの分布の仕方によっては、代表値として平均値を用いることが必ずしも適切でないことを理解している。〔見〕 |
| | | データの散らばりと四分位数 | <ul style="list-style-type: none"> ・範囲の定義やその意味を理解し、それを求め、データの散らばりを比較することができる。〔知〕〔技〕〔見〕 ・四分位数の定義を理解し、それを求めることが四分位範囲の定義やその意味を理解し、それを求め、データの散らばりを比較することができる。〔知〕〔技〕〔見〕 ・範囲の欠点と、四分位範囲の良さを理解している。〔見〕 ・箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。〔技〕〔見〕 ・データの分布と箱ひげ図の関係について理解している。〔知〕 |
| | | 分散と標準偏差 | <ul style="list-style-type: none"> ・偏差の定義とその意味を理解している。〔知〕 ・分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。〔知〕〔技〕 |
| 3 | 学年末考査 | データによる相関 | <ul style="list-style-type: none"> ・散布図を作成し、2つの変量間の相関を考察することができる。〔技〕〔見〕 ・相関係数の定義とその意味を理解し、それを求めることができる。〔知〕〔技〕 ・相関係数は散布図の特徴を数値化したものであること、数値化して扱うことのよさを理解している。〔見〕 |
| | | 表計算によるデータ分析 | <ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトの基本的な計算式について理解している。〔知〕 ・平均値、分散、標準偏差、相関係数の定義に従った式を表計算ソフトに入力し、それらを計算することができる。〔技〕 |

令和2年度

教科指導計画

| | | | |
|-------|--------|-----|---|
| 教科・科目 | 数学・数学A | 単位数 | 2 |
|-------|--------|-----|---|

| | | | |
|--------|----------------------|-----|------|
| 学年・クラス | 1学年 (必修) ・ 選択) | 担当者 | 菊地信明 |
| 使用教科書 | 新編 数学A (数研出版) | | |
| 使用副教材 | 3 TRIAL 数学I+A (数研出版) | | |

目標 (何を定着させるのか?)

場合の数と確率、図形の性質または整数の性質について理解することを目標にします。また、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図りながら事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともにそれらを活用する態度を育てます。

授業の内容/考査の内容・観点 (授業の進め方・考査でのポイントは?)

授業の内容：場合の数と確率、図形の性質、整数の性質を学習します。
 授業の進め方：必要に応じて課題用ノートを提出します。
 考査の内容：基礎計算、公式など授業で扱った内容が基本となります。応用問題も出ます。

評価規準

| | ⑤ 関心・意欲・態度 | ②見方・考え方 | ③技能 | ④知識・理解 |
|-------|--|--|--|---|
| 評価の観点 | 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 | 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。 | 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 | 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 |
| 割合 | 10% | 30% | 30% | 30% |

学習評価 (具体的にどのように評価されるのか)

| 評価対象/評価の観点 | ① | ⑥ | ⑦ | ④ | 具体的な評価方法 |
|------------|---|---|---|---|-------------------|
| 授業の取組み | ○ | ○ | ○ | ○ | 授業準備 授業態度 取組み状況など |
| 課題 | ○ | △ | △ | △ | 提出物 宿題 レポートなど |
| 各種テスト | | ○ | ○ | ○ | 小テスト、各考査 |

○は重視、△は参考

| 学期 | 月 | 単元 | 学習内容 | 評価規準 |
|----|--------|--------------------------------|---|---|
| 前期 | 4 | 準備 集合 | 集合の要素の個数 | <ul style="list-style-type: none"> 表や図を作って場合の数を求める方法に興味を示し、それを利用している【関】 使えることに興味・関心をもち、具体的な事象に関連付けている【関】 条件がつく順列や組合せの見方を変え、別なものに対応させて考察できる【考】 場合の数を順列・円順列・重複順列や組合せに帰着させて計算できる【技】 順列や組合せおよび和や積の法則を活用して場合の数を計算できる【知】 |
| | | 第1章 場合の数と確率 第1節 | 場合の数 順列 組合せ | |
| | 5 | 場合の数 | | |
| | 6 | | | <ul style="list-style-type: none"> 反復試行や条件付きの確率の考え方に興味を持ち、具体的な事象に結びつけられる【関】 複雑な事象の確率を具体的な例の事象に帰着させ、直感的理解ができる【考】 反復試行や独立な試行による確率および条件付き確率の計算ができる【技】 確率の性質を理解し、和事象や余事象の確率を求めることができる【知】 |
| | | 第2節 確率 | 事象と確率 確率の基本計算 独立な思考と確率 条件付き確率 | |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| 9 | 前期期末考査 | | | |
| 後期 | 10 | 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 | 三角形の辺の比 三角形の外心・内心・重心 チェバ・メネラウスの定理 | <ul style="list-style-type: none"> 三角形や四角形における外接円や内接円に興味を持ち、条件を考察しようとする【関】 定理や性質を理解し、条件のある図形の作図ができる【考】 各種定理を用いて線分の比を計算できる【技】 重心の性質やチェバ・メネラウスの定理、方べきの定理を用いて線分の長さや比を計算できる【知】 |
| | 11 | 後期中間考査 | | |
| | 12 | 第1節 平面図形 | 円に内接する四角形 円と直線 | <ul style="list-style-type: none"> 外心・内心の性質や円に内接する四角形の条件を理解し、角度を計算できる【知】 |
| | 1 | 第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 | 約数と倍数 最大公約数・最小公倍数 | <ul style="list-style-type: none"> 倍数の判定法に興味を持ち、素因数分解に活用しようとする【関】 倍数の判定法を考察し、自然数の素因数分解ができる【考】 素因数分解を行うことで、平方数になる条件や最大公約数の考察ができる【技】 倍数や約数の具体例および最小公倍数と最大公約数を求めることができる【知】 |
| | 2 | 第2節 ユークリッドの互除法 学年末考査 | ユークリッドの互除法 1次不定方程式 | <ul style="list-style-type: none"> 素因数分解を必要としない最大公約数の計算法に興味を持ち、計算しようとする【関】 互除法の計算から最大公約数を表す式を導くことができる【考】 1次不定方程式の具体的な整数解を求めることができる【技】 ユークリッドの互除法を利用し、2つの自然数の最大公約数を計算できる【知】 |
| | 3 | 第3節 整数の性質の活用 | 分数と小数 n進法 | <ul style="list-style-type: none"> 2進法での表記に興味を持ち、様々な数を2進数に直そうとする【関】 循環小数やn進数の加法減法ができる【考】 10進数を2進数や3進数で表現できる。【技】 2進数や3進数で表現された数を10進数に直すことができる【知】 循環小数を分数に直すことができる【技】 分数を循環小数に直すことができる【知】 |

| | | | |
|-------|---------|-----|---|
| 教科・科目 | 理科・生物基礎 | 単位数 | 2 |
|-------|---------|-----|---|

| | | | |
|--------|---|-----|------|
| 学年・クラス | 1学年 (<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択) | 担当者 | 浦田麻衣 |
| 使用教科書 | 東京書籍 改訂 新編生物基礎 | | |
| 使用副教材 | 東京書籍 改訂 Let's Try Note生物基礎 | | |

目標 (何を定着させるのか?)

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察や実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養います。

授業の内容/考査の内容・観点 (授業の進め方・考査でのポイントは?)

授業内容：1 生物の特徴 2 遺伝子とその働き 3 生物の体内環境とその維持 4 生物の多様性と生態系
進め方：教科書を中心に、ワークも使用しながら進めます。また小单元ごとに小テストを行います。
考査：授業内容の確認 (8割) 学んだことを活用する応用問題 (2割) を出題します

評価規準

| | ①関心・意欲・態度 | ②思考・判断・表現 | ③技能 | ④知識・理解 |
|-------|--|---|---|---|
| 評価の観点 | 生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心を持ち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。 | 生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえられる。 | 生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、実験・観察の技能を習得している。 | 生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につけている。 |
| 割合 | 10% | 30% | 30% | 30% |

学習評価 (具体的にどのように評価されるのか)

| 評価対象/評価の観点 | ① | ② | ③ | ④ | 具体的な評価方法 |
|------------|---|---|---|---|----------------|
| 定期考査 | ○ | ○ | | ○ | 年4回実施 |
| 実験・レポート作成 | ○ | | ○ | ○ | 適切な観察・期日内の提出 |
| 授業への参加態度 | ○ | ○ | △ | | 授業中の積極性・取り組み状況 |
| 小テスト | ○ | ○ | | ○ | 各单元4回程度実施 |

○は重視、△は参考

| 学期 | 月 | 単元 | 学習内容 | 評価規準 |
|----|---|---|--|---|
| 前期 | 4 | 4編 生物の多様性と生態系 | 1章 植生の多様性と遷移 1節 生態系 2節 植生と生態系 3節 植生の遷移 | ・陸上には様々な植生がみられ、それらは不変ではなく、長期的には移り変わっていくことを理解しようとする。〔関〕 ・植生の成り立ちが、林内の光環境や植物の光に対する特性、土壌の発達段階に影響を受けていることを考察することができる。〔思〕 ・陸上には、森林・草原・砂漠などの多くの植生がみられ、植物をとり巻く環境や構成種により植生が変わっていくことを理解している。〔知〕 |
| | | | 2章 バイオームとその分布 1節 地球上の植生分布 2節 さまざまなバイオーム | ・地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解しようとする。〔関〕 ・生態系において、物質が循環すること及びそれに伴ってエネルギーが移動することを理解しようとする。〔関〕 |
| | 5 | 3章 生態系とその保全 1節 生態系でのエネルギーの流れ 2節 生態系での物質の流れ 3節 生態系のバランス | ・物質の循環を体系的に考察できる。〔思〕 ・窒素や炭素の物質循環のしくみを理解している。〔知〕 | |
| | 6 | 1編 生物の特徴 | 4節 生物多様性の保全 1章 多様性と共通性 1節 多様性と共通性とは 2節 細胞にみられる多様性と共通性 | ・生態系のバランスや、生態系を保全することが重要であることを理解しようとする。〔関〕 ・生物の共通性と多様性について、理解しようとする。〔関〕 ・細胞がすべての生物で共通であると理解しようとする〔関〕 ・細胞が生物の基本構造であることを、生物学的な視点から考察することができる。〔思〕 ・試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得している。〔技〕 |

| | | | | |
|----|----|---------------|---|--|
| | | | 2章 生命活動とエネルギー 1節 生命活動を支える代謝 | <ul style="list-style-type: none"> ・生物の共通性と多様性について、すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解している。〔知〕 ・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。〔関〕 |
| | 7 | 2編 遺伝子とのはたらき | 2節 代謝を進める酵素 3節 生体内のエネルギー変換 4節 葉緑体とミトコンドリアの起源 | <ul style="list-style-type: none"> ・体内で行われる化学反応は、酵素が関わっていることを理解しようとする。〔関〕 ・呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、関連づけて考察し、それを説明できる。〔思〕 ・生体内で行われる化学反応には、酵素が触媒として働いていることを理解している。〔知〕 |
| | 8 | | 1章 生物と遺伝子 1節 DNAの構造 2節 DNAとゲノム | <ul style="list-style-type: none"> ・DNAの性質や構造を、DNAの研究史とともに理解しようとする。〔関〕 ・DNAの性質や構造を科学的に考察することができる。〔思〕 ・生物の組織からDNAを抽出する技能を習得している。〔技〕 |
| | 9 | | 2章 遺伝情報の分配 1節 細胞分裂におけるDNAの複製分配 | <ul style="list-style-type: none"> ・DNAが二重らせん構造であること、そのため、2本鎖の塩基配列は相補的であることを理解している。〔知〕 ・体細胞分裂が行われる際に、DNAが複製されて遺伝情報の同一性が保たれることを理解しようとする。〔関〕 |
| 後期 | 10 | 3編 生物の体内環境の維持 | 2節 DNAの倍加 3節 DNAの正確な複製 3章 遺伝情報とタンパク質合成 1節 DNAとタンパク質の合成 2節 遺伝子の発現と生命現象 | <ul style="list-style-type: none"> ・DNAの複製から分配までを理解している。〔思〕 ・ゲノム、遺伝子、染色体、DNAの関係を理解している。〔知〕 ・DNAの塩基配列の情報に基づいて、タンパク質が合成されることを理解しようとする。〔関〕 ・DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できる。〔思〕 ・DNAの塩基配列に基づいて、タンパク質が合成されることを理解している。〔知〕 |
| | 11 | | 1章 体内環境の維持 1節 体内環境と体液の循環 | <ul style="list-style-type: none"> ・外界の環境が変化しても、体内環境は一定の範囲に保たれていることを理解しようとする。〔関〕 ・解剖など生体を扱う技能を習得している。〔技〕 |
| | 12 | | 2節 恒常性と血液 3節 体内環境を調節する器官 | <ul style="list-style-type: none"> ・体内環境が一定の範囲に保たれることを理解している。〔知〕 ・酸素解離曲線から情報を読み取り、酸素ヘモグロビンが組織に供給した酸素の量を求めることができる。〔思〕 |
| | 1 | | 2章 体内環境を保つしくみ 1節 自律神経系による調節 | <ul style="list-style-type: none"> ・ホルモンの分泌により血糖量が保たれており、ホルモンの分泌不足により発症する疾患について調べようとする。〔関〕 ・腎臓の塩類濃度調節や体温の調節が、臓器や細胞から分泌されるホルモンなどの物質により調節されていることを考察できる。〔思〕 |
| | 2 | | 2節 ホルモンによる調節 3節 自律神経系と内分泌系による協同作用 | <ul style="list-style-type: none"> ・ホルモンの分泌により血糖量が保たれることを理解しており、ホルモンの分泌不足により発症する疾患についての知識を得ている。〔知〕 ・体温調節における自律神経系と内分泌系のはたらきについて、図を描いてまとめることができる〔表〕 ・細胞性免疫と体液性免疫について、それぞれの違いに注目して説明することができる。〔表〕 |
| | 3 | | 3章 体内環境を守るしくみ 1節 免疫のシステム 2節 免疫とヒト | <ul style="list-style-type: none"> ・病原体を認識・排除する機構のしくみを体系的に考察し、表現することができる。〔思〕 ・免疫の異常によって引き起こされる病気について、その仕組みを説明することができる。〔表〕 |

| | | | |
|-------|-----------------|-----|---|
| 教科・科目 | 理科・高山植物（学校設定科目） | 単位数 | 2 |
|-------|-----------------|-----|---|

| | | | |
|--------|-------------------------|-----|--------------|
| 学年・クラス | 1 学年（ 必修 ）・ 選択） | 担当者 | 田中 到 ・ 浦田 麻衣 |
| 使用教科書 | 北海道山の花図鑑利尻島・礼文島（北海道新聞社） | | |
| 使用副教材 | 利尻・礼文自然観察ガイド（山と溪谷社） | | |

目 標（何を定着させるか）

礼文島に生育する高山植物群を中心とした植物の観察・実験・実習を通し、自然保護に対する関心を持ち、自然と人間との関わりについて体系的な知識を身に付けさせるとともに、自然保護と観光産業の発展を両立する方法を考察させ、自然に対する科学的な見方や考え方から、問題解決能力を育成し、礼文島の自然と積極的に関わりながら生きていく力を養う。

授業の内容/考査の内容・観点（授業の進め方・考査でのポイントは？）

| |
|------------------------|
| 1 高山植物の構造と花の種類 |
| (1) 植物の基本構造 |
| (2) 植物の分類 |
| 2 礼文島の自然環境 |
| (1) 礼文島の成り立ち |
| (2) 礼文島の地形（山と丘陵・森林・湿原） |
| 3 礼文島の高山植物の保全 |
| (1) 国立公園の目的と意義 |
| (2) 自然保護活動 |
| (3) 自然保護と自然利用の在り方 |

評価規準

| | ①関心・意欲・態度 | ②思考・判断・表現 | ③技能 | ④知識・理解 |
|-------|---|---|---|--|
| 評価の観点 | ・高山植物を中心とした植物やその環境・現象についての観察・実験などを意欲的に行うとともに、自然に対する関心や探求心を持ち、礼文島や高山植物の基本的事項を理解しようとする。 | ・高山植物を中心とした植物やその環境・現象について、観察や実験をもとに科学的に判断することができる。 ・礼文島や高山植物の基本的事項を理解し、様々な現象に当てはめて考えることができる。 | ・自分の考えで仮説を立て、それをもとに観察・実験を適切に行い、的確な結果を得ることができる。 ・観察・実験結果を工夫してまとめ、そこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。 | ・高山植物を中心とした植物やその環境・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解している。 ・探究活動を通して、科学的な自然観を身に付けている。 |
| 割合 | 20% | 20% | 30% | 30% |

学習評価（具体的にどのように評価されるのか）

| 評価対象/評価の観点 | ① | ② | ③ | ④ | 具体的な評価方法 |
|------------|---|---|---|---|----------------------|
| 授業・実習の取組み | ○ | ○ | ○ | △ | 授業態度、取組み状況など |
| 課題・発表 | ○ | ○ | ○ | ○ | 授業の準備、提出物、発表・発言の様子など |
| テスト | | ○ | | ○ | 定期考査など |

○は重視、△は参考

| | 月 | 単元 | 学習内容 | 評価規準 |
|----|---|-------------------------------|---|---|
| 前期 | 4 | 1 高山植物の構造と花の種類 (1) 植物の基本構造 | ・植物の基本構造と各構造の働きについて学習する ○野外実習 ・久種湖畔における湿原の特徴と湿原特有の植物を観察する。 ・久種湖周辺に見られる周氷河地形と風衝 | ・植物の基本構造や各構造の働きについて興味関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる【①】 ・植物の基本構造について、基本的な知識を身につけることができる【②】 ・水芭蕉やザゼンソウなどの生物学的特徴や、礼文島の地理的条件に興味深く知ろうとする【①】 |

| | | | |
|----|----|---|---|
| | | 木の観察を通して礼文島の自然環境を考察する ・春の礼文で見られる植物の観察 ・礼文島内の自然観察を通して、春の環境と植物の関係について考察する。 | ・春に見られる各植物の特徴を正しく理解している【④】 ・温厚な環境で育つ高山植物と厳しい環境で育つ高山植物の違いを見分け、理解している【②④】 ・校内の高山植物の維持ができる【①③】 ・実習時のレポートを正確に作成できる【③④】 ・ボランティア活動に積極的に参加している【①】 ・発芽実験に興味を持って参加している【①】 ・豆科の植物と休眠種子について理解している【④】 |
| | 6 | (2) 植物の分類 ・植物の基本構造の違いによって種を分類するための知識を修得する ○野外実習 校舎内での高山植物定期観察 ・自然下と花壇での生育状況の違いを経過観察を行う。 | ・植物の種の分類について興味関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる【①】 ・似通った植物の分類を正確に行うことができる【③④】 ・夏に見られる各植物の特徴を正しく理解している【④】 ・観光客に対し、積極的にガイド活動を行える【①】 ・わかりやすくガイドを行うことができる【②③】 |
| | 7 | ・ガイド活動を行い、観光客へ礼文島の自然をわかりやすく伝えると共に、自然保護と観光産業の在り方を考察する。 | ・温厚な環境で育つ高山植物と厳しい環境で育つ高山植物の違いを見分け、理解している【②④】 ・校内の高山植物の維持ができる【①③】 ・校内で見られる植物の経時的変化を把握している【①②④】 ・実習時のレポートを正確に作成できる【③④】 |
| | 8 | 2 礼文島の自然環境 (1) 礼文島の成り立ち 礼文島と利尻島の成り立ちの違いを理解し、礼文島では今後どのような取り組みが必要か考察する。 ○野外実習 礼文島で見られる夏の植物 | ・礼文島と利尻島の成り立ちの違いについて興味関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる【①】 ・他地域と礼文島の自然環境に関する違いを理解している【④】 ・高山植物と礼文島の将来についてあるべき姿を真剣に考えられる【①】 ・礼文島のあるべき姿について、自らの意見を簡潔に主張することができる【②】 |
| | 9 | ・平地で見られる夏の植物を観察し地区ごとの植生を考察する | ・実習時のレポートを正確に作成できる【③④】 ・校内の高山植物の維持ができる【①③】 |
| 後期 | 10 | (2) 礼文島の地形 (山と丘陵・森林・湿原) | ・礼文島の地形について、興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組む【①】 ・様々な環境に適応し生息する高山植物を理解している【②④】 ・1年に二回咲く植物について理解を深めることができる【①④】 ・多年生植物の越冬に関する必要性を考え、自らの意見を述べながら、正しい知識を得ることができる【②④】 |
| | 11 | ・桃岩・久種湖などで行った野外実習を通して、地形の形成や環境要因(地形による微気象)と植生の関係について考察する。 ・植物の生活史を比較し、生存競争の在り方を考える。 ○野外実習 ・植物培養センターにてアツモリソウの生活史と植物の越冬の必要性について学ぶ。 | ・実習時のレポートを正確に作成できる【③④】 ・校内の高山植物の維持ができる【①③】 |
| | 12 | 3 礼文島の高山植物の保全 (1) 国立公園の目的と意義 | ・自然保護活動について、興味関心を持ち学習に意欲的に取り組むことができる【①】 ・自然保護活動について、礼文と国内外の自然保護活動を比較し、今後の取り組みについて考察することができる【②④】 |
| | 1 | (2) 自然保護活動 CBD/COP10について 環境保全の取り組みについて ○野外実習 ・雪の保温効果を測定し、そこに生える植物(高山植物と平地に生える植物)の植生の違いについて考察する。 | ・環境保全の取り組みについて興味関心を持ち学習に意欲的に取り組むことができる【①】 ・CBDの必要性について理解することができる【②④】 ・CBDのトレンドについて理解できる【①④】 ・国内外において環境保全のための取り組みを理解できる【①②④】 ・雪の保温効果について予想し・実験を行い、正確なデータを得ることができる【①②③④】 |
| | 2 | (3) 自然保護と自然利用の在り方 ・島の主要産業である観光との関わりを含め、礼文のこれまでの自然保護活動やESDの理念について考え、今後の在り方について考察する。 | ・雪の保温効果と季節風がもたらす礼文島の特異的植生について理解することができる【②④】 ・島の主要産業と自然保護活動の関わりについて興味関心を持ち学習に意欲的に取り組むことができる【①】 ・礼文島の高山植物の実態について理解している【④】 ・礼文島における人々の生活と高山植物についての望ましい関係について考察・言及できる【①②】 |
| | 3 | (4) 礼文島の観光産業 ・礼文島の観光について高山植物の内容を中心にまとめ、パンフレットを作成する。 | ・グループで協力して取り組むことができる【①】 ・内容を適切にまとめ、パンフレットを作成することができる【②④】 |

| | | | |
|-------|---------|-----|---|
| 教科・科目 | 保健体育・体育 | 単位数 | 2 |
|-------|---------|-----|---|

| | | | |
|--------|---------------------------|-----|-------|
| 学年・クラス | 1 学年 (<u>必修</u>) ・ 選択) | 担当者 | 小山 暢彦 |
| 使用教科書 | | | |
| 使用副教材 | | | |

目 標 (何を定着させるのか?)

1. 運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わいます。
2. 健康・安全を確保し、公正・協力・責任・参画などに対する意欲を高め、自己の状況に応じた体力向上を図る能力を身につけます。
3. 集団的活動を通して、コミュニケーション能力を高めます。

授業の内容/考査の内容・観点 (授業の進め方・考査でのポイントは?)

授業内容：①体づくり運動、②体育理論、③器械運動 (マット運動) ④陸上競技 (競争、跳躍、投てき)、
⑤球技 (バスケットボール、フットサル、ソフトボール、バレーボール、バドミントン、卓球)、
⑥ダンス、⑦スキー

進め方：軽度の技能練習によるウォーミングアップにより体を温め、実戦練習の中で各自ができることを見つけ、スポーツに何らかの形で積極的に参加する習慣付けを目指します。

考査内容：日々の取り組み状況による。また、各種目のスキルテストを実施。内容は種目ごとに提示します。

観点：実践をするにあたって最低限の技能が身につけているか、技能の向上を目指して努力しているか、ゲーム練習において攻防の駆け引きや連携を楽しみながら、チームに貢献する行動がとれているかなどを観ます。

評価規準

| | ⑧ 関心・意欲・態度 | ②技能 | ③思考・判断・表現 | ④知識・理解 |
|-------|---|--|---|---|
| 評価の観点 | 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正・協力・責任・参画などの意欲を持ち、健康・安全に留意して自ら運動しようとしている。また、周囲を喚起する発言や行動を積極的にとる等して、集団に貢献しようとしている。 | 自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行い、技能の向上を図っている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけている。 | 自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指し、適切な目標の設定やフィードバックをしている。また、集団での役割を見つけ、適切な状況判断をし、行動している。 | それぞれのスポーツに対する技能・体力の高め方や、ルール等を理解している。また、体育理論における運動・スポーツの文化的特徴について理解している。 |
| | | ゲーム中に得点やアシスト、インターセプトやブロック、声掛けや作戦立て等によってチームへの貢献につながる行動をしている。 | | |
| 割合 | 20% | 40% | 20% | 20% |

学習評価 (具体的にどのように評価されるのか)

| 評価対象/評価の観点 | ① | ② | ③ | ④ | 具体的な評価方法 |
|------------|---|---|---|---|---------------------------------------|
| 授業の取り組み | ○ | △ | ○ | ○ | 授業態度や用具の準備・片づけ等の取り組み状況。 |
| 学習ノート | △ | | ○ | △ | 提出物 (個人ノート、班ノート、プリント) の内容。 |
| スキルテスト | △ | ○ | △ | | 各領域で提示 |
| 貢献度合い | ○ | ○ | ○ | ○ | 準備、練習、試合、片付けにおいて、集団への貢献につながる行動をしているか。 |

○は重視、△は参考

| 学期 | 月 | 週 | 単元 | 学習内容 | 評価規準 | |
|----|----|----|-------------------------------|-------------------------------|---|--|
| 前期 | 4 | 3 | オリエンテーション | 年間の見通し | 話を聞き、理解しようとしているか【関】 | |
| | | | 体づくり運動 | 体ほぐしの運動 新体力テスト | 運動に積極的に参加し、楽しむことができるか【関】 全国平均と照らし合わせて点数を算出【技】 | |
| | 5 | 4 | 体育理論① | 人間にとって動くとは何か | ほかの動物との比較などで、人間の動きに関する理解を深めようとしている【関・思】 | |
| | | | 球技・選択Ⅰ ・バスケットボール ・フットサル | 基礎・応用練習・ゲーム練習 | 技能向上に向けて積極的に取り組んでいる【関】 明るい言葉によって他者を喚起している【関】 的確な自己診断により、自己の課題を理解している【知】 得点やアシスト、インターセプトやブロック等によってチームに貢献した動きをしている【技】 | |
| | 6 | 4 | 領域選択 ・器械運動 ・ダンス | マット運動 創作ダンス 現代的なリズムのダンス | マット運動の技を体得することに喜びを感じている【関】 マット運動の発表に向けて計画・実行し、改善点を見つけ出している【思・技】 ダンスの特性に応じて、交流や発表ができるよう、イメージを深めた表現や踊りを身に付けている【思・技】 ダンスの学習に自主的に取り組もうとしている【関】 | |
| | | | 陸上競技 | 競走・跳躍・投擲 | 記録の向上を目指し、積極的に取り組んでいる【関】 記録に応じて点数を算出する【技】 | |
| | 7 | 4 | 体育理論② | スポーツの始まりと変遷 | スポーツの始まりと発展について簡単に説明できる【知】 | |
| | | 8 | 2 | 球技・選択Ⅱ ソフトボール (バレーボール) | 基礎・応用練習・ゲーム練習 | 選択Ⅰ同様 |
| | | | 4 | | | |
| | 後期 | 10 | 4 | 体づくり運動 | 新体力テスト(一部) | 記録の向上を目指し、積極的に取り組んでいる【関】 記録に応じて点数を算出する【技】 |
| | | | | 体育理論③ | スポーツ文化の楽しみ方 | スポーツを文化的に捉え、プレー以外での関わり方をイメージできる【思】 |
| | | | | バレーボール | 基礎・応用練習・ゲーム練習 | 選択Ⅰ同様 |
| 11 | | 4 | バレーボール | 基礎・応用練習・ゲーム練習 | 選択Ⅰ同様 | |
| | | | 球技・選択Ⅱ バドミントン・卓球 | 基礎・応用練習・ゲーム練習 | 選択Ⅰ同様 | |
| 12 | | 3 | 体育理論④ | オリンピックと国際理解 | オリンピズムとオリンピックムーブメントを説明できる【知】 オリンピックの歴史とこれからのについて考察できる【思】 | |
| | | | 冬季体育大会種目 | | 体育大会をより楽しむために技能の向上を図っている【関】 | |
| 1 | | 2 | 球技・選択Ⅱ バドミントン・卓球 | 基礎・応用練習・ゲーム練習 | 選択Ⅰ同様 | |
| | | | 体育理論⑤ | スポーツと経済 | スポーツが経済に及ぼす影響について考察できる【思】 スポーツ産業における職業を挙げることができる【知】 | |
| 2 | | 4 | スキー | 基礎練習 フォーメーション滑走 | 積極的に取り組んでいる【関】 ターンやスピードコントロールができる【技】 フォーメーション滑走において、仲間とともに構成を考え、より良い滑走を目指している【思】 | |
| 3 | | 3 | 体育理論⑥ | ドーピングとスポーツ倫理 | ドーピングをする理由を挙げることができる【思】 スポーツを通じて、倫理観について深く考え、自分の意見を述べる【思】 | |
| | | | 選択球技 | 基礎・応用練習・ゲーム練習 | 運動の楽しさや喜びを深く味わい、卒業後に少なくとも一つの運動が継続できるようにする。【関】 | |

令和2年度

教科指導計画

| | | | |
|-------|---------|-----|---|
| 教科・科目 | 保健体育・保健 | 単位数 | 1 |
|-------|---------|-----|---|

| | | | |
|--------|--------------------------|-----|-------|
| 学年・クラス | 1学年 (<u>必修</u>) ・ 選択) | 担当者 | 小山 暢彦 |
| 使用教科書 | 最新高等保健体育[改訂版] (大修館書店) | | |
| 使用副教材 | | | |

目標 (何を定着させるのか?)

| |
|--|
| <p>1. 健康に関する個人の適切な意思決定・行動選択や、健康的な社会環境づくりの重要性について理解を深めます。</p> <p>2. 自らの健康管理、健康的な生活行動、健康的な社会環境づくりなどが実践できるようになるための基礎的な資質や能力を身に付けます。</p> |
|--|

授業の内容/考査の内容・観点 (授業の進め方・考査でのポイントは?)

| |
|--|
| <p>授業内容：現代社会と健康について、心肺蘇生法について (実習)</p> <p>進め方：教科書・プリントを中心に展開。また、調べ学習やロールプレイ、ブレインストーミングを取り入れます。</p> <p>考査：年2回 (前期・後期) 実施します。</p> <p>観点：日々の取り組み状況によります。また、基本的な内容について理解し、問題をよく読み、解答しているか、自己の考えを記述しているかなどを観ます。</p> |
|--|

評価規準

| | ⑨ 関心・意欲・態度 | ⑩ 思考・判断・表現 | ⑪ 知識・理解 |
|-------|---|---|---|
| 評価の観点 | 健康の保持増進に必要な事柄について興味を持ち、仲間と協力し、資料を集めたり意見を交換したり、課題について調べるなど、意欲的に学習しようとしている。 | 健康の保持増進に必要な事柄について、自分のこれまでの学習や経験をもとにし、資料や仲間の意見などを参考にしたりして、課題の設定や解決の方法を考え、選択すべき行動を判断し、表現している。 | 健康の保持増進に必要な事柄について、健康を保持増進するためには、適切な生活行動を選択すること及び環境を改善していく努力が必要であることを理解し、課題解決に必要な知識を身につけている。 |
| 割合 | 20% | 30% | 50% |

学習評価 (具体的にどのように評価されるのか)

| 評価対象/評価の観点 | ① | ② | ③ | ④ | 具体的な評価方法 |
|------------|---|---|---|---|---------------|
| 授業の取り組み | ○ | △ | ○ | | 授業態度、取り組み状況など |
| 学習プリント | ○ | ○ | ○ | | 提出物 (授業プリント) |
| 課題プリント | | ○ | △ | | 提出物 (課題) |
| テスト | | ○ | ○ | | 定期考査、小テスト |

○は重視、△は参考

| 学期 | 月 | 週 | 単元 | 学習内容 | 評価規準 |
|-------------------|----|----|--------------------------|--|--|
| 前期 | 4 | 3 | オリエンテーション | 保健の授業内容について見通しを立てる | 話を聞き、理解しようとしている【関】 |
| | | | 17. 応急手当の意義とその基本 | 応急手当の意義とポイントについて | 応急手当に関する情報や説明等をもとに、適宜マーカーやメモをとるなどして学習内容の理解に努めている【関】 |
| | | | 18. 日常的な応急手当 | けがや症状に応じた適切な手当について | 日常的な応急手当の方法を説明できる【知】 |
| | 5 | 4 | 19. 心肺蘇生法の原理とおこない方 | 心肺蘇生法の原理や手順について AED講習会（事前確認・本番） | 心肺蘇生法の手順を理解し、状況に応じて行動している【思・知】 実習に意欲的に参加し、正しい手順で行動している【関】 |
| | | | 1. 健康の考え方と成り立ち | 健康には様々な考え方があることと、健康の要因について | 健康の要因を学び、それを踏まえて健康とは何か自分の考えをもち、表現できる【思】 |
| | 6 | 4 | 2. 私たちの健康のすがた | 日本の健康水準と問題について | 日本の健康水準・健康問題から自らの課題を見出すことができる【知・思】 |
| | | | 3. 健康に関する意思決定・行動選択と環境づくり | 適切な意思決定・行動選択の重要性と環境づくりについて | 健康に関する意思決定・行動選択の重要性を理解している【知】 様々なシミュレーションをし、正しい意思決定ができる【思】 |
| | | | 4. 生活習慣病とその予防 | 生活習慣が原因でなる病気とその予防について | 生活習慣病について例を挙げて説明できる【知】 生活習慣の改善に向けて意欲的である【関】 生活習慣の改善計画を立てることができる【思】 |
| | 7 | 4 | 5. 食事と健康 | 健康的な食生活について | 細胞形成と食生活の関係について簡単に説明できる【知】 食生活の改善に向けて意欲的である【関】 健康的な食事を献立することができる【思】 |
| | | | 6. 運動・休養と健康 | 適度な運動や休養と健康との関係について | 運動・休養と健康の関係について簡単に説明できる【知】 ボディメンテナンスに関して意欲的である【関】 体力を向上させるための計画をたてることできる【思】 |
| | | | 7. 喫煙と健康 | 喫煙による健康被害と依存についてと、様々なたばこ対策 | 喫煙・飲酒・薬物乱用をする理由を考えることができる【思】 喫煙・飲酒・薬物乱用による体への影響について説明できる【知】 喫煙・飲酒・薬物乱用に誘われたときに断ることができる【思】 |
| | 8 | 2 | 8. 飲酒と健康 | アルコールの健康影響と、様々な飲酒対策について | 喫煙・飲酒・薬物乱用による体への影響について説明できる【知】 喫煙・飲酒・薬物乱用に誘われたときに断ることができる【思】 |
| | | | 9. 薬物乱用と健康 | 薬物乱用による健康影響と、様々な対策について | |
| | 9 | 4 | 前期末考査 | 前期で学習した内容について理解度をはかる | 各単元に関する問題の読解状況に応じて点数をつけ、評価する【思・知】 |
| | | | 考査問題返却・解説 前期のまとめ | 考査問題の解説と前期のまとめについて | |
| | 後期 | 10 | 4 | 10. 感染症とその予防 | 感染症に関する理解と、その予防について |
| 11. 性感染症・エイズとその予防 | | | | 若年層の性感染症被害とその予防について | 情報をもとに、簡単なレポート作成ができる【思】 |
| 11 | | 4 | 12. 欲求と適応機制 | 各年代における欲求の変化と、欲求不満や葛藤を和らげる心の働きについて | 人間の心理に関する情報や説明等をもとに、適宜マーカーやメモをとるなどして学習内容の理解に努めている【関】 人間の欲求について年代ごとに具体例を挙げる【思】 欲求と適応規制を分類分けできる【知】 |
| | | | 13. 心身の相関とストレス | 心と体のつながりと、ストレスについて | 脳の働きと心との関係などについて簡単に説明できる【知・思】 |
| 12 | | 3 | 14. 心の健康のために | ストレスの対処法と、自己実現について | ストレスについて正しい理解をし、実生活におけるストレスの対処法を説明できる【知・思】 自己実現について理解し、具体的な自己目標を掲げている【思】。 |
| | | | 15. 交通事故の現状と要因 | 若年層の交通事故原因と対策について | 交通事故の現状を知り、その傾向と対策について考察できる【思】 |
| 2 | | 4 | 16. 交通事故を防ぐために | 運転者に必要な資質や責任と、安全な交通社会について | 交通事故と社会的責任について理解し、未然防止の具体策を挙げることができる【知】 |
| | | | 後期末考査 | 後期で学習した内容について理解度をはかる | 各単元に関する問題の読解状況に応じて点数をつけ、評価する【思・知】 |
| 3 | | 3 | 考査問題返却・解説 1年間のまとめ | 考査問題の解説と1, 2学年で学んだ内容のおさらいと、日常生活における健康の保持増進について | 最後まで気を抜かず、積極的に知識の整理に努めている【関】 |

令和2年度

教科指導計画

| | | | |
|-------|---------|-----|---|
| 教科・科目 | 芸術・書道 I | 単位数 | 2 |
|-------|---------|-----|---|

| | | | |
|--------|---------------------------|-----|-------------------|
| 学年・クラス | 1 学年 (<u>必修</u>) ・ 選択) | 担当者 | 小林 雅澄・小山 暢彦・須賀 千博 |
| 使用教科書 | 新編 書道 I (教育出版) | | |
| 使用副教材 | | | |

目 標 (何を定着させるのか?)

| |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 書道の幅広い活動を通して書の伝統や文化を愛好する心情を育てます(文化の継承)。 2. 自己の表現意図に基づき「書写」から「書道」へと発展させます(文字美の表現)。 3. 芸術としての「書」を理解し、日常生活に積極的に取り入れながら「書」に親しむ心を養います(書の日常化)。 |
|---|

授業の内容/考査の内容・観点 (授業の進め方・考査でのポイントは?)

| |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 文字の起源と歴史 2. 漢字の書 (楷書・行書・隷書・篆書) 3. 仮名の書 4. 篆刻 5. 創作(色紙・漢字仮名交じりの書など) 6. 鑑賞 <p>※提出作品については、基本的な線質及び、字形の構成、全体構成の完成度を総合的に評価します。 ※作品の制作における創造力、表現の構想と工夫を重視します。</p> |
|--|

評価の観点

| 評価の観点 | ①関心・意欲・態度 | ②書表現の構想と工夫 | ③創造的な書表現の技能 | ④鑑賞の能力 |
|-------|--|--|---|---|
| 評価の観点 | 書を愛好し、書の文化に関心を持ち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。 | 感性を働かせて書の良さや美しさを感じ取り、自らの意図に基づき構想し、創造的に表現を工夫する。 | 創造的な表現をするために書写能力を高め、用具・用材を生かして表現する技能を身に付けている。 | 日常生活における書の効用や日本及び中国等の書の文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。 |
| 割合 | 30% | 20% | 30% | 20% |

評価項目 (評価の観点との関連性及び具体的な評価項目)

| 評価項目/評価の観点 | ① | ② | ③ | ④ | 具体的な評価項目 |
|------------|---|---|---|---|----------------|
| 授業への取り組み | ○ | ○ | ○ | ○ | 理解、意欲、発言、向上心 |
| プリント | ○ | | ○ | ○ | 記述内容 |
| 作品 | ○ | ○ | ○ | | 改善への工夫、創造力、完成度 |

○は重視

(○1つにつき、10点を配点する。)

| 学期 | 月 | 単元 | 学習内容 | 単元の評価規準及び主たる評価者 |
|----|----|--|--|--|
| 前期 | 4 | 書の世界へようこそ ①書の芸術性 ②用具・用材 ③基本用筆 | <ul style="list-style-type: none"> ・字の起源から現代に至るまでの書体の変化と時代背景を学ぶ。 ・文化と文字の関わりについて知識を深める。 | <input type="checkbox"/> 文字表現への関心を高め、意欲的に学ぶ姿勢を高められたか。 ①④ 小林 |
| | 5 | 漢字の学習Ⅰ 「漢字の歴史」 「楷書」 孔子廟堂碑・九成宮 雁塔聖教・顔勤礼 | <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の起源（篆書、隸書、草書・行書、楷書） ・古典の臨書と鑑賞を通して、多様な表現の可能性を学習する。 ・楷書の特徴を比較しながら有名な古典を臨書する。 ・篆書体の特徴を学習し、落款と印の作成を実践する。 | <input type="checkbox"/> それぞれの特徴を比較し、用筆や字形の違いを理解しつつ表現できたか。①③ 小林 |
| | 6 | 篆刻の学習 印の作成 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校祭出品作品を作成する。 ・行書の特徴(リズム・柔らかさと丸み・省略される点画・筆順)に重点を置き古典の名作を臨書し、作品に表れる心の動きや個性を学習する。 | <input type="checkbox"/> 篆刻の役割と意義を理解し、印を作成することができたか。①③ 小林 |
| | 7 | 一字創作 漢字の学習Ⅱ 「行書」 蘭亭序、風信帖 | <ul style="list-style-type: none"> ・隸書の特徴(運筆のリズム・波たく・均整)など特徴を捉えて代表的な作品を臨書する。 | <input type="checkbox"/> 行書の特徴（基本運筆）を捉え、抑揚をつけ臨書することができたか。②③ 小林 |
| | 8 | 漢字の学習Ⅲ 「隸書の学習」 曹全碑 | | <input type="checkbox"/> 隸書がどのようなものか理解し特徴を抑えつつ臨書できたか。 ③④ 小林 |
| | 後期 | 10 | 漢字の学習Ⅲ 「篆書の学習」 泰山刻石 少字数創作 | <ul style="list-style-type: none"> ・篆書の特徴をふまえ、古代の文字を味わう。 ・書体を工夫して創作する。 |
| 11 | | 仮名の書の学習 「仮名の書に親しむ」 平仮名・変体仮名 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本独自の文字「平仮名」の起源と役割を理解し、仮名特有の繊細な線やリズム、流動美を学ぶ。 ・変体仮名や連綿、美しい料紙や構成美など、仮名独特の美を鑑賞し、印象などを話し合う。 | <input type="checkbox"/> 仮名文字の成立と役割について理解し、正しく美しく書写できるようになったか。①～④ 小林 |
| 12 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・変体仮名や連綿、美しい料紙や構成美など、仮名独特の美を鑑賞し、印象などを話し合う。 | <input type="checkbox"/> 仮名で学んだ連綿などを日常生活に生かすことが出来るか。 ①～④小林 |
| 1 | | 漢字仮名交じりの書 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常使う日本語表記をそのまま素材に使い、漢字仮名交じりの書の創作を楽しむ。 | <input type="checkbox"/> 漢字と仮名を調和させながらより良い作品を目指し工夫して書くことができたか。①～④ 小林 |
| 2 | | 「書の創作」 「思いを表現する」 | <ul style="list-style-type: none"> ・自ら構想を立て、構想に沿った表現を追求する | <input type="checkbox"/> 日常生活に深く関わる書を見し、その役割と日本文化について考察をまとめることができたか。①～④ 小林 |
| 3 | | 暮らしの中の書 「手書きの文字」 | <ul style="list-style-type: none"> ・書いた書を作品として飾ったり日常生活で使用するものに活かしたりして、楽しみながら書の世界を広げる。 | <input type="checkbox"/> 日常生活に深く関わる書を見し、その役割と日本文化について考察をまとめることができたか。①～④ 小林 |

| | | | |
|-------|-----------------------|-----|---|
| 教科・科目 | 外国語・ コミュニケーション英語 I | 単位数 | 3 |
|-------|-----------------------|-----|---|

| | | | |
|--------|--|-----|---------|
| 学年・クラス | 1 学年 (<u>必修</u>) ・ 選択) | 担当者 | 中 谷 亮 太 |
| 使用教科書 | LANDMARK Fit English Communication I (啓林館) | | |
| 使用副教材 | LANDMARK Fit English Communication I Workbook (啓林館) Database4500完成英単語・熟語 (桐原書店) プレップイングリッシュ 高校英語の基礎づくり (旺文社) | | |

目 標 (何を定着させるのか)

1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする力を身につけます。
2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する力を身につけます。
3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えようとする力を身につけます。
4. 言語や運用についての知識を身につけ、背景にある文化を理解する力を身につけます。

授業の内容/考査の内容・観点 (授業の進め方・考査でのポイントは?)

授業内容：コミュニケーション活動に必要な4技能をバランス良く学習します。
まとまりのある文章を音読したり、読解したりして、英文の流れを理解します。

進め方：教科書・ワークブックを中心に展開します。授業は原則英語で行います。定期的にALTと言語活動や異文化理解を中心とした授業を展開します。教科書・ファイル(プリント)・辞書・Database4500の4点セットです。

考査：授業で学習した文法やレッスンの理解度、新しく得た知識を確認します。また、リーディングテストやスピーキングテストを実施します。

観 点：積極的に授業へ参加しているか、宿題を意欲的に行っているか、内容について理解しているか、また、考査や単元テスト、単語テスト、リーディングテスト、スピーキングテストを観ます。

留 意 点：わからないことは積極的に質問して下さい。積極的にクラスメートみんなとコミュニケーションを取りましょう。

評価規準

| 評価の観点 | ① コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | ②外国語表現の能力 (Speaking) | ③外国語表現の能力 (Writing) | ④外国語理解の能力 (Reading) | ⑤外国語理解の能力 (Listening) |
|-------|---|--|--|--|--|
| | ・英語の発音や知識を積極的に身につけようと努力できる。 ・提出物や授業内の活動に熱心に取り組むことができる。 | ・簡単な質疑応答ができる。 ・聞き手のことを考えて文の長さや語彙を工夫して自分なりの言葉で表現できる。 | ・英語の語順を理解し、短い文を書くことができる。 ・簡単な接続語を用いて自分の意見を簡単に述べることができる。 | ・事物の紹介や対話、説明や物語を読んで、必要な情報をつかむことができる。 ・単語の読み方を正しく理解し、発音することができる。 | ・音声を聞いて話の概要を大体予想することができる。 ・聞いたことをもとに簡単な質問をすることができる。 |
| 割合 | 20% | 20% | 20% | 20% | 20% |

学習評価 (具体的にどのように評価されるのか)

| 評価対象/評価の観点 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 具体的な評価方法 |
|------------|---|---|---|---|---|----------------|
| 授業の取り組み | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | 取り組み状況、授業での積極性 |
| 提出物 | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | 宿題や課題など |
| テスト | | ○ | ○ | ○ | △ | 定期考査・小テスト |

○は重視、△は参考

| 学期 | 月 | 単元 | 学習内容 | 評価規準 |
|----|----|---------------------------------------|---|--|
| 前期 | 4 | オリエンテーション 英語の音声 英語の品詞 英語の文構造 | 授業の進め方 フォニックス 品詞の理解、判別 5文型 | 【①】 【②】 【③】 【④】 【⑤】 |
| | 5 | Lesson1 | What Can Blood Type Tell Us? (進行形、助動詞、受動態) | ・血液型と性格の関係についての諸説について理解し、日本と世界における血液型の捉えかたの違いを知り、自分の意見を表現できる。【①】 【②】 【③】 【④】 【⑤】 |
| | 6 | Lesson2 前期中間考査 | Curry Travels around the World (動名詞、現在完了) | ・カレーの起源とその広まりに関する歴史について読み、興味のある物事を時系列にそって説明することができる。【①】 【②】 【③】 【④】 【⑤】 |
| | 7 | Lesson3 | School Uniforms (比較) | ・日本と諸外国における制服の特徴やその役割について理解し、制服に関して自分の意見を持ち議論することができる。【①】 【②】 【③】 【④】 【⑤】 |
| | 8 | Lesson4 | Gorillas and Humans (不定詞) | ・ゴリラと人間の違いやゴリラが今おかれている状況について知り、ゴリラを守るために何をすべきか考え、表現できる。【①】 【②】 【③】 【④】 【⑤】 |
| | 9 | 前期期末考査 | | |
| 後期 | 10 | Lesson5 | “gr8” or great? (関係代名詞、間接疑問文) | ・言葉の移り変わりや世代独特の言葉のでき方や意味について理解し、日本における言葉の変化について意見を持ち表現できる。【①】 【②】 【③】 【④】 【⑤】 |
| | 11 | Lesson6 | Biodiesel Adventure (分詞、過去完了) | ・時間や場所の変化に気をつけながら旅行記を読んで内容をとらえ、絵や図などを用いて内容をまとめることができる。【①】 【②】 【③】 【④】 【⑤】 |
| | 12 | 後期中間考査 Lesson7 | Eco-tour on Yakushima (使役動詞、関係副詞) | ・世界自然遺産に登録されている屋久島に関する話を読み、礼文島と比較し、礼文の自然をどう守るか考えることができる。 【①】 【②】 【③】 【④】 【⑤】 |
| | 1 | Lesson8 | Mariko Nagai, Super Interpreter (知覚動詞) | ・日本を代表する通訳者の長井さんの英語学習に関する物語を読み、自分のこれまでの学びへの取り組みを振り返り、新たな学びの姿勢を持つことができる。【①】 【②】 【③】 【④】 【⑤】 |
| | 2 | Lesson9 学年末考査 | Space Elevator (仮定法) | ・スペースエレベーターに関する専門的な文章を読んだ経験をもとに、世界の最先端技術について調べ、まとめることができる。【①】 【②】 【③】 【④】 【⑤】 |
| | 3 | 学年のまとめ | 1年間のまとめ | 1年間で学んだことを元に、自由英作文ができる。 【②】 【③】 |

| | | | |
|-------|----------|-----|---|
| 教科・科目 | 外国語・国際理解 | 単位数 | 1 |
|-------|----------|-----|---|

| | | | |
|--------|---------------------|-----|-------|
| 学年・クラス | 1学年（ 必修 ）・選択 | 担当者 | 中谷 亮太 |
| 使用教科書 | なし（ワークシートを使い授業を行う） | | |
| 使用副教材 | なし（ワークシートを使い授業を行う） | | |

目標（何を定着させるのか？）

海外交流事業で求められる必要な英語力をつけることを目的とします。海外で出会う人とうまくコミュニケーションをとることができるように、はじめは基本的な日常英会話ができるようになることを目標とします。その後、礼文高校、礼文島について英語で発表する力を身につけます。海外交流事業終了後は、学んだことを英語で発信する力を身につけます。また、海外交流事業で体験したこと、見たものを活用し実践的な英語力を身につけます。

授業の内容/考査の内容・観点（授業の進め方は？）

内容：海外交流事業で出会う人たちと英語でコミュニケーションを取る力を身につけます。また、礼文高校、礼文島について英語でプレゼンテーションをする力を身につけます。
進め方：ワークシートをもとに授業を進める。クラスメートと協力して、考え、表現する授業をベースとします。
観点：積極的に相手とコミュニケーションを取ろうとしているか。英語を通じて相手に意思を伝えたり、相手が言ったことを正しく理解したりできるか。実際に使われる英語を理解できるかなどを観ます。

評価規準

| 評価の観点 | ①コミュニケーションに対する関心・意欲・態度 | ②言語や文化に対する知識・理解 | ③外国語表現の能力 | ④外国語理解の能力 |
|-------|--|---|---|--|
| 評価の観点 | 積極的に相手と英語でコミュニケーションを取ろうとしたりしているか。積極的に英語で発表しようとしているか。 | 日常英会話やプレゼンテーションをする際に必要な語彙を理解しているか。また、海外交流事業で行く国の文化を理解しているか。 | 相手と適切な英語を使ってコミュニケーションが取れているか。また英語でプレゼンテーションソフトを用いて発表できているか。 | 相手が話した内容を適切に理解しているか。また、プレゼンテーションで使う英語を正しく理解できているか。 |
| 割合 | 20% | 30% | 30% | 20% |

学習評価（具体的にどのように評価されるのか）

| 評価対象/評価の観点 | ① | ② | ③ | ④ | 具体的な評価方法 |
|---|---|---|---|---|---------------------------------------|
| 積極的に英語で発表したり、相手とコミュニケーションを取ろうとしたりしているか。 | ○ | | | | 授業中の観察により評価する。 |
| 英語で相手とコミュニケーションを取ることができているか。 | ○ | ○ | ○ | ○ | パフォーマンステストにより評価する。 語彙は小テストで評価する。 |
| 礼文高校や礼文島の特徴や良さを英語で伝えられるか。 | ○ | ○ | ○ | ○ | プレゼンテーションの内容により評価する。 語彙は小テストで評価する。 |

○は重視

| 学期 | 月 | 単元 | 学習内容 | 評価規準 | | |
|----|----|-------------------------|-----------------------------------|---|---|--|
| 前期 | 4 | 第1部 日常英会話 | ホストファミリーの家、空港、店などの実際の場面を想定した日常英会話 | 【コミュニケーションに対する関心・意欲・態度】 積極的に英語で伝えたり、相手が言ったことを聞こうとしたりしているか。（観察） 【外国語表現の能力】 【外国語理解の能力】 パフォーマンステストにより評価する。 【言語や文化に対する知識・理解】 小テストにより評価する。 | | |
| | 5 | | | | | |
| | 6 | 第2部 海外交流事業のプレゼンテーション | 礼文島、礼文高校に関するプレゼンテーションの原稿作成 | | | |
| | 7 | | 礼文島、礼文高校に関するパワーポイントの作成 | | | |
| | 8 | | プレゼンテーションの発表練習 | | | |
| | 9 | | | | | |
| | 後期 | 10 | 第3部 海外交流事業のまとめ | | 海外交流事業で学んだこと、体験したこと、感じた事を英語でまとめる。また、その内容に関してプレゼンテーションをする。 | 【外国語表現の能力】 【外国語理解の能力】 原稿の内容を理解し、英語で海外交流事業で学んだこと、体験したこと、感じた事を英語でプレゼンテーションができるか。発表内容により評価する。 |
| | | 11 | | | | |
| | | 12 | 第4部 オーセンティックな教材を活用した英語学習 | | 海外交流事業で撮った写真や動画をを用いて英語を学ぶ。また、その場面を想定した英会話を行う。 | 【言語や文化に対する知識・理解】 小テストにより評価する。 【外国語表現の能力】 【外国語理解の能力】 パフォーマンステストにより評価する。 |
| 1 | | | | | | |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |

| | | | |
|-------|---------|-----|---|
| 教科・科目 | 家庭・家庭総合 | 単位数 | 2 |
|-------|---------|-----|---|

| | | | |
|--------|--------------------------------|-----|------|
| 学年・クラス | 1学年 (<u>必修</u> ・ 選択) | 担当者 | 須賀千博 |
| 使用教科書 | 家庭総合 ともに生きる 明日をつくる (教育図書) | | |
| 使用副教材 | 生活ガイドブック データ&グラフ 資料+成分表 (教育図書) | | |

目標 (何を定着させるのか?)

- ① 身近な生活の中から課題を見出し、解決に向けて主体的に取り組める能力を身につけます。
- ② 授業で学んだことを日常生活に落とし込み、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を学びます。

授業の内容/考查の内容・観点 (授業の進め方・考查でのポイントは?)

| |
|--|
| <p>授業内容</p> <p>家庭生活に付随する身近な事象を様々な分野から総合的に学習します。</p> <p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教科書や補助資料から基礎的知識を学びます。 ②調理実習や被服製作実習を通し、基礎的技術を身につけます。 ③習得した基礎的な知識・技術を実験や体験を通し、科学的・理論的に学びます。 ④視聴覚教材や統計資料・新聞等から身近な課題を考えます。 <p>考 査</p> <p>授業で使用したプリントの他に教科書やノートから出題します。</p> |
|--|

評価規準

| | ① 知識・技能 | ② 思考・判断・表現 | ③ 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|--|--|--|
| 評価の観点 | 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身につけることができる。 | 生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて理論的に表現するなどして課題を解決する力を身につけることができる。 | 様々な人と協同し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践することができる。 |
| 割合 | 50% | 30% | 20% |

学習評価 (具体的にどのように評価されるのか)

| 評価対象/評価の観点 | ① | ② | ③ | 具体的な評価方法 |
|------------|---|---|---|-------------------------|
| 授業の取組み | △ | ○ | ○ | 授業態度、取組み状況 |
| 授業課題 | △ | ○ | ○ | 提出物 (個人ファイル、プリント etc.) |
| 実技課題 | ○ | | | 製作課題 |
| テスト | ○ | ○ | | 考查 |

○は重視、△は参考

| 学期 | 月 | 単元 | 学習内容 | 評価基準 |
|----|----------|-------------------|--|---|
| 前期 | 4 | ○衣生活 | ・マスクを作ってみよう | □基本的な採寸や手縫いが行えたか【①】 |
| | 5 | ○人の一生と家族 | ・人生ってなんだろう ・青年期とはどんな時期 ・家族ってなんだろう ・家族と社会のかかわり | □人の一生の課題を総合的にとらえたライフプランを作成することができたか【②】 |
| 後期 | 6 | ○保育 | ・赤ちゃんはなぜかわいい ・子どもはどう育つのだろう | □乳幼児を理解し、子どもの発達段階を理解できたか【①】 |
| | 7 | | ・親になるとはどういうことか ・おもちゃづくり ・保育所実習 | □高校生という立場から、親の役割について考えることができたか【③】 □実習を通し、保育士の仕事を理解することができたか【③】 |
| | 8 | | □実習を通し、子供への接し方を発達段階に合わせて行うことができたか【③】【①】 | |
| | 9 | ○衣生活 | ・なぜ服を着るの？ ・衣服の成り立ちと性質を考えよう ・衣服をどのように管理する？ | □洗濯実験により洗剤の働きを理解できたか【①】 □気候・風土に適した被服の選択を理解できたか【①】 □被服の歴史を理解し、被服の種類を理解できたか【②】【③】 |
| | 10 | ○衣生活 | ・前期期末考査 ・被服実習 | □授業内容を理解し、知識として定着できたか【①】【②】 □採寸を適切に行えたか【①】 □まち針・布・ボタンなどの被服にかかわる道具を適切に扱えたか【①】 □被服の成り立ちを理解し、実習を通して衣服に興味関心を抱いたか【③】 |
| | 11 | ○高齢者 | ・社会はどう高齢化するのだろうか ・高齢期ってどういう時期 ・高齢期の生活を支えるしくみは ・高齢者の介護を学ぼう | □高齢者の心身の特徴と生活・福祉について理解できたか【①】 □高齢者を支えるために必要なことを理解できたか【②】 □ノーマライゼーションやバリアフリー、ユニバーサルデザインを理解できたか【①】 |
| | 1 | ○学校家庭クラブ活動 | ・高齢者と触れ合おう ・ボランティア弁当 | □高齢者とのかかわりを理解し、積極的に参加できたか【③】 □高齢者の福祉について考えを深められたか【②】 □高齢者を意識した献立作成を行うことができたか【②】 □衛生面を考慮し調理従事を行えたか【①】 □授業内容を理解し、知識として定着できたか【④】 |
| 2 | ○人の一生と家族 | ・学年末考査 ・人生すごろく | □授業内容を理解し、知識として定着できたか【①】【②】 □人の一生の課題を総合的にとらえたライフプランを作成することができたか【①】【②】 | |
| 3 | | | | |

| | | | |
|-------|----------|-----|---|
| 教科・科目 | 情報・社会と情報 | 単位数 | 2 |
|-------|----------|-----|---|

| | | | |
|--------|--|-----|------|
| 学年・クラス | 1学年 (必修)・選択) | 担当者 | 保坂剛司 |
| 使用教科書 | 社会と情報 (東京書籍) | | |
| 使用副教材 | 全国商業高等学校協会主催全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集3・4級 (実教出版) 全商情報処理検定模擬試験問題集3級 (実教出版) | | |

目標 (何を定着させるのか?)

情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てます。

授業の内容/考查の内容・観点 (授業の進め方・考查でのポイントは?)

- 授業の内容: 実習授業を通して、情報機器や情報通信ネットワークを活用するための基礎的・基本的な技能を習得します。また今日における情報の特徴や情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報モラルについて学習します。
- 授業の進め方: 教科書、ノートを使用して進めていきます。
- 考查の内容: 授業で学習した内容が出題されます。

評価規準

| | ①関心・意欲・態度 | ②思考・判断・表現 | ③技能 | ④知識・理解 |
|-------|---|--|--|---|
| 評価の観点 | 情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響や課題について関心を持ち、他者を尊重して情報社会の一員として積極的に参画する態度を身につけている。 | 情報や情報社会における身の回りの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて思考を深め、適切に判断し表現している。 | 情報機器や情報通信ネットワークを適切に活用するための基礎的・基本的な技能を身につけるとともに、問題解決において、状況に応じてメディアを選択してコミュニケーションを行うことができる。 | 情報機器や情報通信ネットワークを適切に活用する知識を身につけるとともに、情報および情報技術の社会的意義や役割について理解している。 |
| 割合 | 20% | 30% | 20% | 30% |

学習評価 (具体的にどのように評価されるのか)

| 評価対象/評価の観点 | ① | ② | ③ | ④ | 具体的な評価方法 |
|------------|---|---|---|---|-----------------|
| 学習活動の取り組み | ○ | ○ | ○ | ○ | 授業態度、授業教材の準備、発言 |
| 課題 | △ | △ | △ | ○ | 実習課題、提出物 |
| 定期試験 | ○ | ○ | ○ | ○ | 定期考查、確認テスト |

○は重視、△は参考

| 学期 | 月 | 単元 | 学習内容 | 評価規準 |
|----|--------------|---|--|--|
| 前期 | 4 | 序章 情報社会とわたしたち | オリエンテーション | ・情報化の光の部分と影の部分に関心を示しているか。【①】 ・情報化の光と影について正しく判断できるか。【②】 |
| | | 第1章 情報活用と表現 | 第1節 情報とメディアの特徴 | ・情報の信憑性や信頼性について正しく判断して情報を利用できるか。【②】 ・情報やメディアの特徴、分類、特性について、知識を持っているか。【④】 |
| | 第2節 情報の表現と伝達 | | ・わかりやすく情報伝達しようとする意欲が見られるか。【①】 ・情報やデータ入力技術について理解し、的確なデータ入力技術を身につけることが出来たか。【③④】 | |
| 5 | 第3節 情報のデジタル化 | ・情報量を適切な単位で表現できるか。【②】 ・2進数・10進数の相互変換ができるか。【③】 ・2進数・10進数の相互変換の方法を理解しているか。【④】 | | |

| | | | | |
|--------------------|--------------|---------------------------------|--|--|
| | 6 | | アカデミックスキルズ① プレゼンテーション | <ul style="list-style-type: none"> ・他者への評価を意欲的に行っているか、また評価記入用紙への記述状況はどうか。【①】 ・プレゼンテーションのテーマおよびストーリーがしっかりと構成されているか。【②】 ・プレゼンテーション製作の流れを理解しているか。【④】 |
| | 7 | 第2章 情報通信ネットワークの活用とコミュニケーション | 第1節 コミュニケーションとメディア | <ul style="list-style-type: none"> ・メディアの発達の歴史に興味・関心を持っているか。【①】 ・人間のコミュニケーションの特徴を理解しているか。【④】 |
| | 8 | | 第2節 情報通信ネットワークの活用とコミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> ・技術の進歩によるメリット・デメリットの両側面を考えることができるか。【②】 ・目的に応じて、電子メール、電子掲示板、ブログ、SNSなどのコミュニケーションツールを適切に利用する技能を有しているか。【③】 |
| | 9 | | 前期期末考査 | 考査・解答・解説 |
| | 後期 | 10 | 第2章 情報通信ネットワークの活用とコミュニケーション | 第3節 情報通信ネットワークのしくみ |
| 11 | | アカデミックスキルズ② 調査の方法 | | <ul style="list-style-type: none"> ・客観的なデータを集めるための調査の手法として、どういった手法があるか表現できるか。【②】 ・客観的なデータを集めるための調査の手法を理解しているか。【④】 |
| | | 12 | 第3章 望ましい情報社会を構築するために | 第1節 情報化が社会に及ぼす影響と課題 |
| 第2節 情報社会における情報システム | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・情報社会における情報システムに興味・関心を持っているか。【①】 ・情報化の進展が社会がどのように発展・豊かになったかを考えそのメリットとデメリットを自分の言葉で表現できるか。【②】 ・情報社会における主な情報システムの種類と内容について理解しているか。【④】 |
| 1 | | 第3章 望ましい情報社会を構築するために | 第3節 サイバー犯罪とセキュリティ対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータウイルスやサイバー犯罪の被害に遭わないように対策を立てようとしているか。【①】 ・インターネットと匿名性の関係や、個人情報漏洩における危険性を考えられるか。【②】 ・情報セキュリティの脅威に対して適切に対処する技術があるか。【③】 |
| | | | 第4節 よりよい情報社会を目指して | <ul style="list-style-type: none"> ・情報格差など情報化の課題について説明できるか。【②】 ・ユーザビリティやアクセシビリティに配慮したWebページを作成できるか。【③】 ・情報技術の発達による社会・生活の変化や情報技術発展について理解しているか。【④】 |
| | 2 | アカデミックスキルズ③ マルチメディア表現・映像作品制作 | <ul style="list-style-type: none"> ・表現したい対象の情報収集・整理・分析がなされ、自分の考えが正しく表現されているか。【②】 ・映像作品制作を通して、文字の大きさ、配置など情報が伝わりやすく、デザインやレイアウトを工夫し、受信者を考慮した表現をしているか。【③】 | |
| | 後期期末考査 | 考査・解答・解説 | | |
| 3 | 終章 情報社会と問題解決 | 問題解決 | <ul style="list-style-type: none"> ・自らの問題・課題について考え、課題解決に向けて取り組んでいるか。【①】 ・問題解決のための手段の選択は適切か。【②】 ・検索エンジンや客観的データを利用して、必要な情報を収集できるか。【③】 ・問題解決の手順と解決するための工夫を理解しているか。【④】 | |
| | | アカデミックスキルズ④ 情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> ・目的や対象を明確にして、表現方法やデザインの工夫を行っているか。【②】 ・情報発信する際の注意事項について、理解しているか。【④】 | |